

ガンコ親父の

松次郎は忘年会が大好きだったが、自分が若い頃の忘年会とは「フリ」が違っているのか、かつてほど気合は入らない。今年の忘年会も不完全燃焼気味だった。一次会が終わわり、後輩からもう一軒行きましょと小料理屋に誘われた。暖簾をくぐるついたら、中からは演歌ではなく、山下達郎のクリスマスソングが聞こえてきた。

「あれ？、ジョン・レノンのクリスマスソングじゃなかったのか？ なんか違って」と暖簾の端をつまんで後輩はおどけた。松次郎は大好きなジョン・レノンの名前をノレンにされて、少しムツとした。その瞬間「アナタ、ワタシノナマエ、イイマシタ？」と店内から声が聞こえた。カウンターの奥を見ると外国人の夫婦が座っていた。「ワタシ、ジョンデス」と目の青いお客が松次郎たちに声をかけてきた。最近のインバウンドブームは確かにすごいと松次郎は思った。こんなに小さな庶民的な飲み屋で、外国人から声をかけられるようになったのだ。

奄美黒糖焼酎

松次郎たちは女将さんにその二人を紹介された。ジョンは以前にバックパッカーとして日本を訪れたことがあり、縁あって島に立ち寄った。極力お金を使わない貧乏旅行を続ける若者だったジョンに、これも何かの縁だと、無料の食事とお酒をふるまったらしい。さらには、風呂と宿まで用意してあげた。目に染みる青い海と人の優しさ。ジョンは長旅で疲れていた心と身体を癒されたのだ。翌朝の出発時、ジョンは女将さんの手を強く何度も握りしめ、必ずもう二度サンキョウを言いに戻ってきます、と言ったという。

女将さんは「戻ってきます」というジョンの言葉に若い頃を思い出していた。昔、付き合っていた男も島を離れる時に「必ず戻ってくるから」と言ったが、それっきりだった。戻ってこないのにはどうしようもない事情でもあったのだからと、純粹に信じたその頃が懐かしくもあった。言葉はその瞬間は本気で言っているものでも、残念ながらすぐに風化してしまう。それが世の常だった。

「松次郎さんね、ところがジョンは新婚旅行で本当に立ち寄ってくれたのよ」と女将さんは嬉しそうだった。「あの時のお礼にと、ハワイまでの往復飛行券までプレゼントしてくれたの」と信じられないといった表情を見せた。

日本人以上の義理人情に厚い外国人がいるなんて、と松次郎の心は熱くなった。

今夜はジョンがいる小料理屋の暖簾をくぐってよかった。松次郎がいちばん好きな「まっすくな心」に出会えたからだ。もう不完全燃焼の一次会の事はどこかに飛んで行ってしまった。「ジョン君か、君みたいな男にふさわしい酒だけど、俺からの一杯をもらってくれないか？」と

『しまっちゅ伝蔵』を夫婦に差し上げるように、女将さんに注文した。「ちよっとキザよね」と女将さんは微笑んだ。後輩も「本当に似合わないですよね」と笑った。その夜、小料理屋は遅くまで笑い声が絶えなかった。



しまっちゅ伝蔵
でんぞう

常圧蒸留

昔ながらの手造り こだわり焼酎

喜界島の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香ります。



900ml (25度) 1800ml (25度) 1800ml (25度)

おかげさまで「創業100周年」

25度
好評発売中



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連296番地12
TEL 0997(65)0251

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。



the most beautiful villages in japan
喜界町 鹿児島県

ジョンに乾杯!!

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。